現代韓国文学にみる朝鮮戦争後の都市と建築

－「日月」と「広場」に登場する建築空間－

URBAN & ARCHITECTURAL SPACE OF THE POST KOREAN-WAR
IN THE CONTEMPORARY KOREAN LITERATURE

The architectural space which appears in the literary works, “The Sun and Moon” and “The Square”

裴 垞 皓*, 若山 滋**

Joon-ho BAE and Shigeru WAKAYAMA

The Purpose of this study is to analyze the urban area and architectural spaces within, which are described in two Korean literatures, “The Sun & Moon” and “The Square”, using the following three methods. First, we classify architectural terms used in the literatures into 14 types, and we analyze the usage frequency of those and the trend in architectural style within them. Second, we define the background stages appearing in the literatures as conscious spaces and set these into three distinctive spaces: space of custom, consensus, and estrangement, which are divided further into six patterns of spaces based on whether they are private or social. Analyzing characteristics of the architectural terms described in each pattern space, we examine the conscious spaces and the relation with the stages. Third, we build the structure of consciousness among the background stages and analyze the spatial meaning of post-war society. We expect to find some symbols of historical and physical urban architectural space. In the mean time, we can also find the other spaces veiled by these symbols, the psychological space.

Keywords: Literature, Conscious Space, Architectural Terms, Post-war Society

文学, 意識空間, 建築用語, 戦後社会

1. はじめに

1-1 目的

朝鮮戦争の終結から、1970年代の経済成長期までの韓国は、まさに激動期で、韓国史のなかでも一つの特異点をなしている。特に戦時イデオロギー（韓国ではこの言葉が使われる）の混在と、近代的都市化による新旧社会の葛藤によって戦後社会は予測のつかない複雑な動きの中にあった。長く続いた政治的な断絶によって、韓国の建築文化は自立せず、日本と西洋の建築様式を一方的に受け入れた時でもある。この時期の社会状況を分析することは、当時と現代の韓国建築を理解する上でも重要な意味がある。

本研究では文学の中に登場する建築空間を考察する。建築的表象の中に隠された社会像や文化、具体的空間に内包された時代性を探求する方法として、人間とその集団間で蓄積されてきた意識の深層が投影される文学は有効な研究対象であると考えられる。

本稿では、当時の社会問題をその作品に如実に反映させた黄順元^{注1)}と崔仁勲^{注2)}の代表作を対象作品とし、作品の中にあらわれる都市と建築空間を「意識空間」として考察することで、韓国の戦後社会の空間像とその意味性を発見することを目的としている。

1-2 既往研究

文学と建築とを連係する研究は、文学評論や歴史分野、風俗研究、そして建築分野で行なわれている。文学評論では文学作品と風土との関係性を探求した研究¹⁾や、文学とその背景となる都市空間との関係を記号学的な見解で論じた研究²⁾などが挙げられる。歴史分野では1920年代の都市空間と生活空間を当時の文学作品の中から抽出して解析する研究³⁾がある。建築分野では古典文学から当時の都市や建築空間を分析した研究⁴⁾や、現代児童文学の作品から子供の遊び空間を分析した研究⁵⁾もある。また、文学のジャンルの一つである詩を通して韓国の住居空間の意味を探究した研究⁶⁾や20世紀を代表する文学作品の一つである Marcel proust の「失われた時を求めて」という作品から Saint-Hilaire 教会堂の鐘塔についての建築的現状と体験を分析した研究⁷⁾がある。研究論文以外には、Giuseppe Terragni がダンテの「新曲」を解釈して、文学に描かれた空間を実際の建築空間に図面化⁸⁾したものや、建築家が Melville の「白鯨」を、アメリカのマンハッタンを象徴する作品として解釈し、図面化した理論的な建築作品⁹⁾がある。

韓国でも文学と建築を結ぶ研究が行われている。国文学分野では、

* 名古屋工業大学大学院工学研究科
博士後期課程・修士(工学)

** 名古屋工業大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)

Graduate Student, Graduate School of Engineering, Nagoya Institute of Technology, M. Eng.

Prof., Graduate School of Engineering, Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.

小説の中の時間性と空間性について考察した研究¹⁰⁾がある。建築分野でも、文学の中の住居空間の空間構成から地域の特徴と生活様式を分析した研究¹¹⁾や、文学の中に記述されている場所を再現して都市景観を考察した考古学的な立場からの都市研究¹²⁾、そして現代都市を「言語談論」の構造を通して再解釈した研究¹³⁾などが行われている。

これまで若山らは、日本の古典文学を初めとして、文学にみられる都市と建築空間についての研究を行っており、多くの論文¹⁴⁾を発表している。また、これらの研究をまとめたものとして「文学の中の都市と建築」¹⁵⁾と「家とやど」¹⁶⁾、「風土から文学への空間」¹⁷⁾などが出版されている。

文学が研究資料として扱われるのは、そこに都市と生活空間の人間の体験が記述されており、文学空間が持つ意味についての解釈ができる資料として意義があるためである。本稿では、建築用語のデータ化とともに、文学にあらわれる様々な舞台を、舞台の性質によって分類した意識空間として分析することで、当時の社会の意識構造を建築的方法で明らかにすると同時に、文学空間についての新たな方向性を探るという立場をとっている。

2. 研究対象と研究流れ

2-1 研究背景と研究対象の選定

韓国の近代化は、戦後から始まり、年代ごとに政治・社会的な特徴をもっている。1950年代の戦後社会から、1960年代の政治的な激動期の社会、1970年代の産業化社会、最後に1980年代の軍事政府の長期政権に反する民主化運動の社会まで、その1段階である戦後社会を研究対象とする。1950年代の後半から60年代の前半までの韓国は、朝鮮戦争後の政治的・社会的な不安定の中でもアメリカを中心とした西洋文化が流入し始めた時期であった。文学界では戦争の体験を通して戦争の悲劇を告発した戦時小説や、戦後の社会意識や問題を描いたり、また、戦争によって伝統志向的な倫理意識や生活文化上の変化を中心に描いた戦後小説などが幅広くあらわれた。また、サルトル(J. P. Sartre)とカミュ(A. Camus)によって主導された実存主義(existentialism)文学が新世帯作家を中心に胎動し始まった。本稿では特に当時の情緒と思想をテーマとして戦後社会の状況をよく描いた二人の作家を選別する。

黄順元は韓国人の生き方と生活様式を探り調べ、簡潔な文章と叙情的な構造で描写することによって韓国文学の位相を一層高めたと評価されている。ヒューマンイズムと韓国の情緒を追求してきた文学一筋の作家で、彼の叙事的な世界の推移そのものが韓国の文学史の質的拡散に繋がったといえる。黄順元が朝鮮戦争後の韓国社会に注目して描き出した小説の中で、『日月』は1962年『現代文学』誌に3つのシリーズで連載された作品である。白丁の出身で新興財力を持つある一族の没落過程を描きながら、伝統文化に新文化が入り込むことによって変わっていく社会構造や人間関係など戦後社会の現実を描いた小説で、1966年3・1文化賞に選ばれた。

崔仁勲は朝鮮戦争という歴史的な事件の中に入っている時代精神、いわゆる当時の人々が追求した価値や苦悩を明瞭に表現した作家であると評価されている。民族の主体性に注目し、社会体制と政治構造を観念的な思考と簡単な文章であらわし、批判してきた作家でもある。特に彼が戦後社会を背景として描いた『広場』は戦後小説の

完結版と呼ばれ、今でも多くの人々に広くしれわたっている。『広場』は1960年10月『夜明け』誌に発表された作品で、南北の理念的な対立という悲劇的な状況がイデオロギーと人間存在の根本的な問題に結び合って描かれている。この作品と主人公は戦後の南北時代から4.19革命(反政府抗争)が起こるまでの歴史・政治的な転換期の民族の思想を象徴しているといえる。

以上のような作者の特徴をふまえて、戦後社会の情緒が色々な人間像を通してあらわれている『日月』と、当時の思想が主人公の行跡と自意識を通してあらわれている『広場』は新・旧や南・北という多様な面から戦後社会の状況を分析できる作品と考え、研究対象^{注3)}として選定する。

分析資料とした訳書^{注4)}は改訂版前の本であるが、あとがきの内容まで充実な訳を行っており、当時の著者の執筆本により同様の内容であるため、資料として妥当であると考え。

2-2 研究の流れ

本研究では、文学の中の建築空間を考察するため、次の順を追って研究を進める。

- 1) 作品に描かれている様々な用語のうち、特に建築に関する用語の頻度を集計する。出現頻出と物語の関係(場所・空間の重要度)や建築空間の特徴、建築用語と時代性の分析など、用語から文学作品の考察を総合的に行う。
- 2) 登場する舞台を物理的な用途区分によってまとめ、さらに「意識空間」として捉える。意識空間のパターンごとによる用途別の構成比から舞台の空間的特徴をさぐる。
- 3) 主な舞台をさらに、心理状態と明暗描写による4象限にわけ、作品における全体の「意識構造図」を分析する。
- 4) 3つの分析によって得られた知見をもとにして、文学作品の中の都市と建築空間がもつ意味を時代的、社会的背景をふまえて考察する。

3. 建築用語の考察

3-1 建築用語の選定

文学作品を建築的目線で捉えるために、建築用語からの考察は欠かせざるを得ない基本的分析であると考え。建築用語とは、文学の中にあらわれる都市と建築を示す単語で、その機能とスケールによって【建物関連用語】【都市関連用語】【その他の用語】の3つに分類する。さらに【建物関連用語】を[建物・機関][部屋][部位][建具・部材][家具・小物][庭]に、【都市関連用語】を[地域・都市][道路施設][都市設置物][交通機関][自然][国・外国]に、【その他の用語】を[空間範囲]と[その他]に細分類する。

【建物関連用語】

1. 建物・機関：建物全体あるいは独立的な構造物を示す用語
2. 部屋：建物のうち一つの空間単位を示す用語
3. 部位：複数の部材が組み合わされて空間を構成する部分を示す用語
4. 建具・部材：部材、部屋の仕切りになる建具などを示す用語
5. 家具・小物：家具や小物を示す用語
6. 庭：庭全体、庭を構成するものを示す用語

【都市関連用語】

1. 地域・都市：地域名、場所名、都市名を示す用語

2. 道路施設：都市や地域などの道路を示す用語
3. 都市設置物：都市や地域に公共目的のために作られた設置物を示す用語
4. 交通機関：都市や地域に交通関連の機械類を示す用語
5. 自然：[建物関連用語]に属する庭以外の自然を示す用語
6. 国・外国：国、国外を示す用語

【その他の用語】

1. 空間範囲： 2つの建築用語が連用した複合領域、あるいは1つの建築用語だけではなくその周辺の範囲を示す用語。[空間範囲]を基準となる対象によって「家具対象」「建具対象」「部位対象」「部屋対象」「建物対象」「道路・街対象」「町・村対象」「市・県対象」「自然対象」「その他対象」の10のカテゴリに分類する。

2. その他：建築プロセス関連や領域比喩を示す用語
- 以上のように選定した建築用語から、用語の特徴や作品の関係を探る。

3-2 建築用語の考察

『日月』の高頻出建築用語を表1に、『広場』の高頻出建築用語を表2に示す。両作品とも物語によってあらわれる場所と空間についての出現頻出が高かった。『日月』の場合、<家><居酒屋><とさつ場>などが物語の重要な場所性をあらわす建築空間として数多く出現した。部屋用語の中では<書斎><応接間><浴室>があらわれ、洋式住宅の出現がみられる。<オンドル><障子>が部位用語としてみられ、韓国の家の形式をあらわしている。『広場』の場合は、主な場所を示す<家><船><北朝鮮><韓国>の頻度が高い。部屋用語でも船に関する<甲板><船長室><船室>の用語が多くあらわれた。領域用語では<広場><密室>の用語が物語の重要なキ

ーワードとして描かれている。

また両作品の全体からみると、<ホテル><劇場><新聞社><病院>と<バス><汽車><電車>から近代的都市化の特徴と、<日本><アメリカ><中国>からは周辺情緒など、当時の韓国の時代性が読み取ることができるといえる。

4. 舞台空間の考察

4-1 舞台の用途区分と意識空間の選定

4-1-1 物理的用途区分の選定

作品に登場する舞台の様子を探るため、対象作品に登場する様々な舞台を、個人領域と社会領域に大別したのち、さらにその舞台の用途によって9つに分ける。(表3)

表3 用途区分の説明

個人領域	主人公の家	物語の中心である話者の私的空間
	他人の家	中心話者以外の人の私的空間
社会領域	公共施設	医療・福祉・文化・教育・官公署建物
	商業施設	販売目的をもつすべての建物
	産業施設	商品の製造・運営などに関わる建物
	町・村	都市や地方の地域空間
	交通機関	運送に関わるすべての動力機関
	自然	私的空間以外の自然空間
	その他	空想や想像にあらわる舞台空間

※公共施設は医療・福祉・文化・教育・官公署などの建物に限り、商業施設は販売目的をもつすべての建物、産業施設は商品の製造・運営などの目的を持つ建物とする。

本稿では、映画のシーンのように登場人物の言動表現が行われる一つの場面を舞台と定義し、一つの段落を基本単位として舞台を抽

表1 『日月』における高頻度の建築用語

建物関連												都市関連										その他					
建物・機関	語	部屋	語	部位	語	建具・部材	語	家具・小物	語	庭	語	地域・都市	語	道路施設	語	都市設置物	語	交通機関	語	自然	語	国・外国	語	空間範囲	語	建築プロセス	語
家	333	部屋	147	壁	42	ドア	43	杯	51	庭木	30	村	77	道	38	電信柱	9	車	50	山	38	わが国	13	建物対象	92	設計	31
喫茶店	55	ホール	13	階段	29	戸	41	タバコ	49	庭	21	町	73	街	22	バス停留所	9	バス	17	海	29	日本	9	部屋対象	53	建築	12
居酒屋	44	書斎	9	床	17	窓	36	テーブル	40	庭花	13	ソウル	42	路地	18	通りの門	7	タクシー	9	川	23	アメリカ	9	自然対象	46	建築材料	7
とさつ場	36	病室	8	屋根	12	門	31	椅子	33	空き地	4	市	18	大通り	14	ネオン	6	自動車	5	木	22	韓国	2	町・村対象	42	工事現場	7
建物	36	応接間	7	天井	6	出入口	12	電話	31	花壇	3	インチョン	12	山道	6	石塔	5	ボート	5	池	12	中国	2	建具対象	35	建築工事	6
ホテル	31	カウンター	7	バルコニー	5	焼き口	8	本	21	庭の塔	2	プサン	4	横道	5	街路樹	4	汽車	4	土手	11	西洋	2	部位対象	30	形態	5
会社	27	台所	6	塀	5	玄関	7	灯	20	庭石	1	道(県)	4	通り	4	街灯	3	ジープ	4	丘	11	フランス	1	道・街対象	23	建築家	4
祈禱院	26	居間	6	垣根	5	柱	7	寝台	19	池	1	市場	1	田舎道	4	看板	3	トラック	4	田畑	10	スペイン	1	市・県対象	8	現場監督	3
学校	23	浴室	6	石垣	1	オンドル	5	建築模型	15	運動場	1	市街地	1	ロータリー	3	公衆電話	2	電車	2	プラタナスの葉	9	ロシア	1	その他対象	7	層	3
教会	19	板の間	5	テラス	1	網戸	4	ピアノ	13					街角	3	井戸	2	牛車	2	花園	6	インド	1	家具対象	6	敷地	3
大学	19	廊下	5	煙突	1	障子	3	ラジオ	12					電車通り	2	石像	2	伝馬船	1	公園	5	ねーバル	1			新築	3
小屋	18	トイレ	5	地べた	1	押入れ	3	パイプ	11					四つ角	2	信号	1	船	1	墓地	5	朝鮮	1			フルスケール	2
その他	220	その他	44	その他	1	その他	29	その他	299					その他	11	その他	1	その他	4	その他	55	その他	4			その他	29
合計	887	合計	268	合計	126	合計	229	合計	614	合計	76	合計	232	合計	132	合計	54	合計	108	合計	236	合計	47	合計	342	合計	115

表2 『広場』における高頻度の建築用語

建物関連												都市関連										その他					
建物・機関	語	部屋	語	部位	語	建具・部材	語	家具・小物	語	庭	語	地域・都市	語	道路施設	語	都市設置物	語	交通機関	語	自然	語	国・外国	語	空間範囲	語	領域隠喩	語
家	59	部屋	58	壁	24	窓	36	本	34	庭木	4	港	9	街	12	波止場	7	船	41	海	44	北朝鮮	44	部屋対象	24	広場	57
劇場	15	甲板	19	階段	12	戸	19	タバコ	23	庭	4	インチョン	7	道	10	像	5	オートバイ	7	かもめ	37	韓国	21	自然対象	19	社会	21
警察署	12	船長室	11	マスト	11	門	17	新聞	19	花壇	2	ソウル	6	路地	4	噴水	3	車	2	洞窟	23	中国	21	その他対象	17	密室	10
学校	9	船室	11	床	11	ドア	12	銃	18	庭石	1	市	5	山道	3	街路樹	2	ジープ	1	山	15	モスクワ	20	建具対象	13	人民の国	8
新聞社	8	廊下	9	屋根	7	欄干	7	灯	14	人工築山	1	ピョンヤン	4	下水道	2	敷石	1	自転車	1	盆地	9	日本	16	部位対象	9	ブルジョア社会	4
建物	6	食堂	8	天井	3	手すり	3	机	14	池	1	町	4	舗道	2	ベンチ	1	バス	1	野原	7	国	14	建物対象	5	ジャングル	4
居酒屋	6	編集室	5	煉瓦塀	1	瓦	3	寝台	14			村	4	袋小路	2	高圧線塔	1	掃除車	1	木	6	南韓	10	町・村対象	5	エゴの部屋	3
下宿	6	キッチン	3	垣根	1	入口	2	椅子	13			道(県)	3	ロータリー	1			馬車	1	川	5	外国	9	道・街対象	4	最後の広場	2
収容所	6	寝室	3	城壁	1	スレート	1	テーブル	12			市場	3	街道	1			汽車	1	荒野	4	中国	8	家具対象	3	原始の広場	2
病院	5	刑事室	2	煙突	1	スチーム	1	戸棚	9					鉄道	1			ボート	1	海水浴場	3	香港	7	市・県対象	2	空間	2
大学	4	病室	2			ガス設備	1	瓶	9					通り	1					丘	3	アメリカ	7			資本主義社会	2
休養所	4	地下室	2			扉	1	海図	8											草むら	2	カルカッタ	6			殺戮の場	2
その他	55	その他	19			その他	2	その他	95											その他	15	その他	56			その他	22
合計	195	合計	152	合計	72	合計	105	合計	282	合計	13	合計	45	合計	39	合計	20	合計	57	合計	173	合計	239	合計	101	合計	139

出した。一段落とは、意味をあらわす部分からその意味が継続する部分までの長い文章の大きな切れ目であり、同じ時間的な叙述で一つの場が複数の段落にわたって描かれていたら、すべてを一つの舞台として扱う。

作品ごとに登場した主な舞台を表4と5に示す。両作品において、物語による葛藤の原因場所あるいは悲劇的空間が主な舞台(高頻度)としてあらわれた。

表4 『日月』の主な舞台

(): 出現頻度

個人領域		社会領域						その他
主人公	他人の家	公共施設	商業施設	産業施設	町・村	自然	交通機関	
仁哲の家	池教授の家	小学校	喫茶店	とさつ場	村（山椒谷）	海	車	想像の階段家
	村の農家	郡庁	居酒屋	畜産組合	ソウル	川		想像の赤土
	お爺さんの家	ソウル駅	飲食店	建築現場	プサン	洞窟		ある舞台
	高婦人の家	軍部隊	ホテル		議政府市	山		
	兄貴の家	大学	玉突き屋			砂浜		
	奈美の家	野球場				土手		
	丸太小屋	祈祷院						
	従兄の家	ほこら						
	祈祷院小屋	病院						
	新築の家	銀行						
1箇所 (40)	10箇所 (31)	10箇所 (23)	5箇所 (38)	3箇所 (12)	4箇所 (55)	6箇所 (9)	1箇所 (6)	3箇所 (3)

表5 『広場』の主な舞台

(): 出現頻度

個人領域		社会領域						その他
主人公	他人の家	公共施設	商業施設	産業施設	町・村	自然	交通機関	
南韓の家	教授の家	警察署	居酒屋	建築現場	ソウル	海	船	密室
北朝鮮の下宿	ユンエの家	収容所			ピョンヤン	盆地		広場
	父さんの家	新聞社			インチョン	洞窟		扇子の中
		病院			満州	裏山		
		休養所			北朝鮮の町			
		劇場			中立国			
		板門店						
		公共農場						
2箇所 (13)	3箇所 (6)	8箇所 (19)	1箇所 (2)	1箇所 (1)	6箇所 (14)	4箇所 (11)	1箇所 (33)	3箇所 (2)

4-1-2 意識空間の選定

作品の中に描かれる舞台は、登場人物の多様な意識が同伴されて表出される空間であるといえ、それらの舞台を意識空間と定義する。次に抽出した意識空間を、表現主体を中心に描かれた言動表現からとらえた登場人物の意識から、共存・交流・分離の3つに分類する。(表6)

表6 登場人物の意識による空間の分類

意識共存の空間 (conscious-coexistence)	習慣的な行動や平凡な行為による結果としての空間
意識交流の空間 (conscious-interchange)	場所の構成因子によって好/反感的な情緒を持つ空間
意識分離の空間 (conscious-separation)	文化様式や思想の差異による精神的な拒否あるいは理想の空間

また、近代的都市化において、今までみられていない形で芽生えてきた「個人」という単位に着目し、3つに分類した意識空間の切り目として扱い、個人と社会という2つの領域に分けて6種類のパターンを創出する(図1)。そして、作品の中からの個人と社会の関係性を考察する。

図1 意識空間のパターン概念

分析においては、パターンIを、個・共に、パターンIIを個・交に、パターンIIIを個・分に、パターンIVを社・共に、パターンVを社・交に、パターンVIを社・分に記述する。

これまでの研究手法に沿って、作品の中の舞台を分析する例を表7にあらわす。

表7 意識空間の表現文章と内容分析の例文

【例文ー日月、p. 380~382】 仁哲は初めて自分が従兄の起竜を訪ねて行く訳を知った。 <u>従兄の起竜は避けるという自意識なしに会えるたった一人の人間だったから。…土壁はところどころ剥げ落ちて、<u>屋根のトタン</u>は赤く錆ついていた。…部屋は暗かった。黄色っぽい色変わりした壁紙と黒ずんで垢で汚れたセメント袋貼りの床が部屋の中を余計に薄暗くさせていた。…暫くその場に座り込んでいた。</u>	【用途区分】 従兄の家 (他人の家) 【パターン】 II 【明暗・心理】 暗・親密	【建築用語】 土壁 屋根 トタン 部屋 壁紙 セメント袋 貼りの床
【例文ー日月、p. 245、250】 とさつ場は村の右手の端、 <u>共同墓地</u> とは反対側の谷あいにあった。五、六坪もあろうかと思われる納屋のような古ぼけた建物である。…セメントの壁はひびが入ったり剥げ落ちたりして、中の赤土があちこちのみ出していた。セメントの床だけは…それは脂血でどす黒く変色していた。…仁哲はとかく沈み勝ちな心を持てあましていた。目の前に繰りひろげられている事実が、…じつは自分の先祖たちのしきりであり、今も伯父に当たる人が目のあたりにそれを行っている事実と直面して、一口には言い尽くめほどの <u>烈しい嫌悪感に促</u> られていた。…池教授が何となく冷静な人のようにさえ思えた。	【用途区分】 とさつ場 (産業施設) 【パターン】 VI 【明暗・心理】 暗・乖離	【建築用語】 とさつ場 村 共同墓地 谷 納屋 古ぼけた建物 セメントの壁 赤土 セメントの床
【例文ー広場、p. 126~128】 中立国。誰一人見知った顔のない土地。…病院の守衛か、消防署の監視人、劇場の切符売り、そんな、 <u>なるだけ神経を使わないですむ、…僕は始終ニコニコして何も言わない。</u> …宿直の看護婦が消すのを忘れたガスコンロを発見して病院を火事から救う。僕は表彰されて、…また街が一日に見渡せる消防署の監視人はどうだろう？ <u>高いところから見下ろす都市の眺めは生活の画幅ではなく詩そのものであろう。</u> … <u>そんなとりとめのないことが未知の国ではすべて可能に思えた。</u> そこで中立国を選んだ。	【用途区分】 中立国 (町・村) 【パターン】 V 【明暗・心理】 明・親密	【建築用語】 中立国 土地 病院 消防署 劇場 ガスコンロ 街 都市 未知の国

※【パターン】と【明暗・感情】は斜体の部分で判断し、【建築用語】は下線の部分を取り上げて分類する。

社会を隠喩しながら、物語によって警察→新聞社→病院という順番に変わっていく。これは、作家が求める戦後の都市像で国家が目指して造るべき社会像を象徴しているといえる。作品全体の構造から個人と社会の対立構造がみられることで、イデオロギー社会を意味する現実の広場（都市空間）と個人を意味する密室空間との概念の区分、そして室単位までの領域に対する知覚が芽生えていることがわかる。さらに、モダニズムの登場とともに、近代建築が戦後社会に定着し始めており、個人の領域に対する意識が強まっていく時代を反映しているといえる。『広場』の意識構造図を図2にあらわす。

図3 『広場』における意識構造図

6. まとめ

二つの作品の意識構造にあらわれた空間像を通して、戦後社会の特徴を探り出す。個人領域の場合、4-1-2で設定した意識空間の共存・交流・分離にそれぞれ安心・刺激・孤独という空間性があらわれており、社会領域の場合、意識空間の共存・交流・分離にそれぞれ親近・社交・疎外という空間性が、特色としてあらわれている。

用途区分における社会領域に着目した場合、公共施設が全般的に暗くて乖離をもたせる空間として特徴的に認識できる。また、急な近代都市化による旧社会との隔たりができたものの、近代化による都市に流入する人口は、経済成長とともに商業施設を発達させる原動力になった。都市化は不安定な社会構造の中で、産業施設を庶民のオアシスとして認知させる現象を生み出した。当時の近代化都市政策においては、いわゆる成長第一主義の都市・建築計画が偏重されていた傾向をあらわしているといえる。

当時の近代化する都市は、新しい秩序が構築される空間でありつつ、時には混乱からの逃げ場として、時には憧れる領域の代替的な第3の領域として認識されている。また、理想主義的な場あるいは現実都市からの逃げ場として自然が多いのは、急激な西欧化の近代社会がもつ個人主義・資本主義・機械文明への依存などに反して、近代化以前の都市、いわゆる自然そのままの社会への憧れが当時の社会意識の中に形成されていたためであると考えられる。

旧社会との断絶、あるいは都会化という激しい時代を歩んできた二人の作家は、物理的な変化を現実として受けとめつつ、未成熟な社会の内部構造については批判的なまなざしを投げかけている。

注

注1) 1915年生まれ。早稲田大学英文科卒業。アジア自由文学賞・大韓民国文学賞など多数受賞。主な作品としてカインの後裔、木々斜面に立つ、夕立、日月などがある。

注2) 1936年生まれ。ソウル大学中退。東仁文学賞、韓国演劇映画芸術喜劇賞など受賞。主な作品として広場、九雲夢、灰色人などがある。

注3) ①黄順元：『黄順元全集』第8巻「日月」、文学と知性社（韓国）、2003.11

②崔仁勲：『文学と知性の小説名作選』第1巻「広場」、文学と知性社（韓国）、2005.1

③金素雲（訳者）：『現代韓国文学選集』第1巻長編小説Ⅰ、冬樹社（日本）、1973.10

注4) 訳者金素雲は1907年生まれ、詩と随筆の作家でありつつ、翻訳文学者である。13歳の時、渡日し、34年間滞在した。日本の詩人である北原白秋に師事して1923年『地上楽園』の同人として日本詩壇で活躍した。日本滞在中、韓国の民族文化についての誤った評価を正すため、韓国の作品を日本語に翻訳して紹介し始めた。翻訳詩集には朝鮮民謡集（1929）、朝鮮詩集（1943）などがあり、1976年には3年間翻訳した＜現代韓国文学選集＞を日本と韓国で同時出版した。

参考文献

- 1) 奥野健男：小説のなかの銀座、砂子屋書房、1983年
- 2) 前田 愛：都市空間のなかの文学、筑摩書房、1984年
- 3) 海野 広：モダン都市東京、中央公論社、1983年
- 4) 池 浩三：原氏物語—その住まいの世界、『中部建築ジャーナル』、1987.5～1987.11、
- 5) 仙田 満：現代日本の創作児童文学におけるこどものあそび空間の研究、日本建築学会計画系論文集、No.510、pp.177～183、1998.8
- 6) 西垣安比古：李退溪の陶山十三曲に観るすまうことの意味—すまうことの場所論的研究3、日本建築学会計画系論文報告集、No.420、pp.83～93、1991.2
- 7) 黒岩俊介：建築経験の諸相—ブルーストの「失われた時を求めて」におけるサンティエール教会堂の鐘塔の場合、日本建築学会計画系論文集、No.417、pp.99～107、1990.11
- 8) Thomas Schumacher：From Gruppo 7 to the Danteum、『Oppositions』、MIT Press、Summer、1977.9
- 9) Douglas Darden：「Melville：An Architect's Reading of Moby-Dick」、『A+U』、No.272、1993.5
- 10) 김현：현대소설의 시간성 및 공간성연구、서강대학교대학원、국어국문학과、1987
- 11) 서귀숙：문학적표현으로 묘사된 주거의 건축적공간 연구、대한건축학회논문집(계획계)、Vol.16、No.6、2000
- 12) 조이담：구보씨와 더불어 경성을 가다、바람구두、2005
- 13) 정인하：현대도시이론과 언어담론의 상관관계에 관한 연구、건축역사연구、제12권3호 통권35호、2003.9
- 14) ①若山 滋ら：『万葉集』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No.388、pp.116～123、1988.6
- ②若山 滋ら：『古今和歌集』と『新古今和歌集』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No.405、pp.141～147、1989.11
- ③若山 滋ら：『源氏物語』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No.408、pp.93～98、1990.2

④若山 滋ら：『枕草紙』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No. 411、pp. 89～95、1990. 5

⑤若山 滋ら：夏目漱石の作品の中の建築の研究－舞台空間の推移から見た作品の類型について、日本建築学会計画系論文報告集、No. 476、pp. 101～109、1995. 10

⑥若山 滋ら：『古今和歌集』と『新古今和歌集』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No. 478、pp. 131～139、1995. 12

1 5) 若山滋：文学の中の都市と建築、丸善ライブラリー、1991 年

1 6) 若山滋：「家」と「やど」、朝日新聞社、1995 年

1 7) 若山滋：風土から文学への空間、新建築社、2003 年

(2007年 5月10日原稿受理, 2007年12月26日採用決定)